
オルタナティブヒーロー

3000/10/4

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オルタナティブヒーロー

【Nコード】

N1783V

【作者名】

3000/10/4

【あらすじ】

ある日突然異世界の勇者の身代わりになってしまった少年、天池ユウシ。

いわゆる、「良くある展開」

ただしその世界、勇者は国王の嫌われ者だった！

そんなこんなで、新米勇者ユウシは国王に睨まれながら魔族とたたかうことになる。

嫌われ勇者

三日前、僕は勇者なる存在になりました。

二日前、小さな国の王様と面会しました。

昨日、謎の刺客襲われ（王家の紋章付き）危うく命を落としかけました。

そして今日、僕は本物の勇者（なぜか鷲の姿）と会話をしているのであった。

「すまん、すまん」

と、わしは悪びれたそぶりもなく、陳謝してきた。その声は、どうやら俺にしか聞こえないらしく、この部屋に来るまでに何度も謝られたのだが、そのたびにずっと無視していた。

「もう、どうでもいいよ……」

僕の頭の中は、一昨日の王様との面会にさかのぼっていた。

正面に王様らしき人。なんだか、とても偉そうな態度だった。その隣に女王様らしき人。それから周りには、護衛だろうか、七人の人物がいた。合計九人の人物が僕を睨んでいた。

なんというか、ものすごく敵意を持たれている気がしてならなかった。視線という視線が。雰囲気という雰囲気が痛かったから。眼球サイズの穴が体中に開きそうだった。

もともと、対人の免疫が少ない（要するに人見知り）の僕には地獄のような苦痛だった。

「どうして、勇者が嫌われ者なんだよ。」

僕の知識では、勇者というのは国王の最終兵器のような存在のはずだ。ゲームだけはやりこんできた僕だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1783v/>

オルタナティブヒーロー

2011年10月9日13時46分発行